

川越農林振興センターだより



埼玉県のマスコット コバトン

第24号 平成30年6月発行

発行 川越農林振興センター

電話 049-242-1808(代表)

e-mail r421810@pref.saitama.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0902/>



狭山茶産地の新たな挑戦が始まっています



協議会発足 狭山茶で乾杯

1 農業遺産への挑戦

狭山茶を生産する11市町（入間、所沢、狭山、飯能、日高、鶴ヶ島、川越、坂戸、ふじみ野、三芳、春日部）は、狭山茶の農業遺産認定を目指して、平成29年7月に「狭山茶農業遺産推進協議会」を立ち上げました。

狭山茶は、農家が自ら栽培した茶葉を製茶し、販売までを一貫して行う「自園・自製・自販」が主流となっています。産地全体で6次産業化を実践し、園ごとにこだわりの味わいを生み出している伝統を将来に受け継ぎ、狭山茶の更なるブランド力の強化と、産地全体の活性化につなげることを目指しています。

2 海外販路拡大への挑戦

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの「農産物の調達基準」では、GAPの認証によって生産されたものが条件とされ、これに対応するため、埼玉県が進めているS-GAPについても、新たに「S-GAP実践農場2020」を新設しました。管内では、3月末現在、106件の茶生産者が実践農場として評価を受けています。

農場評価を希望される方は、当農林振興センターまたは茶業研究所にご相談ください。皆様の積極的な取組をお願いします。

また、県では緑茶需要の拡大が見込まれるフランスで、今年の10月に開催される日本博「ジャポニスム2018」に狭山茶を出展するとともに、輸出の実務支援や商談会を開始し、EU輸出への契機とすることとしています。

3 抹茶生産への挑戦

現在、ヨーロッパを中心に空前の抹茶ブームとなっており、抹茶のインバウンド需要の大幅な増加が見込まれるとともに、国内外の実需者から狭山抹茶を使った加工食品への期待も高まっています。

このため、平成29年度に県茶業研究所に抹茶加工施設を整備し、今後は、抹茶の試験研究や狭山抹茶の認知度を加速させることで、生産技術の確立・普及を図り、抹茶の生産に意欲的な生産者を後押ししていくこととしていますので、茶生産者の皆様の積極的な取組をお願いします。



狭山茶 茶園

平成29年度農地中間管理事業による農地集積状況について

農地中間管理事業は、農業者の高齢化や遊休農地の増大等、人・農地の問題解決のため、農地中間管理機構が農地の中間的受け皿になって、担い手に農地を集積・集約化していく事業で、平成26年度から実施されています。

1 県内における農地中間管理事業の実施状況について（表1）

埼玉県では、平成27年度から目標面積を設定し推進してきましたが、平成28年度には目標面積800haに対し、実績1,011haと目標面積を上回る実績となりました。

平成29年度は、目標面積が倍の1,600haとなりましたが、目標を上回る1,741haとなっています。

2 管内における平成29年度の取組状況について

○重点モデル地区における取組実績（表2）

重点モデル地区を5地区（①川越市下小坂・平塚地区、②狭山市柏原地区、③富士見市南畑地区、④坂戸市浅羽地区、⑤日高市田波目地区）設定するとともに、重点モデル地区に準ずる地区（モデル候補地区）等を設定し、それぞれの段階に応じた集積取組を行った結果、55haの転貸実績となりました。

3 平成30年度の取組

平成30年度については、県の目標面積が、2,200haと今年度より600ha増える計画となりました。

当管内においても、引き続き市町や農業委員会と連携し、重点地区等を定め、積極的に推進を図ります。

表1 農地中間管理事業の実施状況

(ha)

区分	H29		H28		H27		H26
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	実績
全 県	1,600	1,741	800	1,011	800	623	74
管 内	182	55	121	24	121	10	2

表2 重点モデル地区の賃借実績

市町名	地区名	転貸面積(ha)
川 越 市	下小坂・平塚	18.2
狭 山 市	柏原	1.0
入 間 市	木蓮寺・上ヶ谷貫・下ヶ谷貫・中神地区	8.5
富 士 見 市	南畑	6.8
坂 戸 市	浅羽	9.7
日 高 市	田波目	10.8
合 計		55.0



中間管理事業について熱心に聞く組合員

農業版ウーマノミクス事業を活用してパッケージを一新 埼玉県では女性農業者の視点を生かした商品開発を応援しています



自社ワゴンバスでの販売の様子



煎茶と狭山茶コーラの写真

県では、女性農業者の視点を生かし新たなビジネスチャンスへチャレンジする女性を対象に、キャリアアップ研修や商品開発などを支援しています。

この度、三芳町上富の田畑淳子さん（田畑園）は、農業版ウーマノミクス事業を活用して煎茶と狭山茶コーラのパッケージ開発に挑戦しました。

茶の栽培から製造・販売まで一貫して行っている田畑園は『失敗を恐れずに新しいことはどんどん挑戦する』がモットーで、ワーゲ

ンバスでTABATAEN CAFEを展開し、茶を利用した飲み物や加工品の販売にも積極的に取り組んでいます。

今回、商品の売り上げをさらに伸ばすためには新たな販路開拓が必要と考え、若い世代をターゲットとした商品づくりに取り組みました。

パッケージを一新した商品は、自社店舗、直売所、商業施設の他、可愛くて機動性のあるワゴンバスを活用し各種イベントでの販売を予定しています。

青年農業者のプロジェクト発表が聞きごたえあり！

平成30年1月16日、狭山市市民会館において「平成29年度入間地方青年農業者会議」を開催しました。この会議は、青年農業者の相互研鑽や農業技術・経営の資質向上を図ることを目的として毎年開催しているものです。

会議では、青年農業者の集団である4Hクラブ等が営農上の研究成果や組織の活動成果について発表を行います。特に優秀な発表者には川越農林振興センターから所長賞を授与し、次のステップである県大会の川越地区代表としても推薦しています。

平成29年度は、過去最高の6つの4Hクラブから発表がありました。その結果、所長賞は川越市4Hクラブの大澤滉平氏による『独立就農時の3つの壁』、及びむさし4Hクラブの高沢諒平氏による『農業ははじめました。～春植え玉ねぎへの挑戦 労働期間の分散化～』と題したプロジェクトが受賞しました。

両氏とも新規参入者が直面する課題についての確に整理し、ひとつひとつ克服していった成果が評価されたものです。

今年度も、課題解決研究を通じ、青年農業者の経営安定が図られるよう、センター職員は青年農業者の活動を応援してまいります。



授賞式の様子

トンネルをはがさず、ほうれんそうのべと病防除！

平成27、28年の冬期に、ほうれんそうべと病の新レースが発生し、問題となりました。

そこで、従来のトンネル資材(POフィルム)に替わり、被覆したまま薬剤散布ができ、保温性のある資材の比較検討を行いました。

結果、割繊維(ベタロン等)は、ほうれんそうへの薬剤付着もよく、POフィルムと比べると3週間程度生育が遅れたものの、凍霜

害の被害はありませんでした。また、べと病も今年の気象では発生が見られず、生産者からは薬剤散布に係る労力・時間が削減できると、高い評価を得ることができました。

引き続き、べと病の発生抑制のため、割繊維のトンネルでも生育遅延が小さい品種の比較や栽培管理の見直し等を行い、実用化に向け検討していきます。

箱施用剤でイネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ)を予防しましょう！

収穫後1カ月くらい過ぎた水田を見て、何か気付いた事はありませんでしたか？「そう言えば、刈り取った後から生えてくる再生株(ひこばえ)の中に、黄色く変色した葉が混ざっていたなあ…」という方は、注意が必要です。何故なら、これはイネが縞葉枯病に感染した場合に見られる現象だからです。昨年は出穂期以降に感染したケースが多く、発病

が遅れたため直接的な被害は目立ちませんでしたが、今年の春以降に、縞葉枯病のウイルスを持ったヒメトビウンカの発生数が増える可能性が高くなっています。特に、縞葉枯病に抵抗性の無い品種(コシヒカリ等)を栽培される方は、ウンカ類に登録のある箱施用剤を使って、移植直後からの防除に努めましょう。

カリの施肥量を見直してみませんか？

人間地域の主要野菜の多くは、窒素に対して2倍程度のカリが必要です(表参照)。N-P-Kが8-8-8など横並びの肥料を使い続けた結果、土壌中のカリが減り、減収や品質低下をもたらしている可能性があります。土壌診断を行い、不足しているカリを基準値まで補った上で表を参考にした施肥を行いましょう。

表 窒素に対するカリの比率

作物名	収量1tに対する養分吸収量(kg)			窒素に対するカリの比率(倍)(B÷A)
	窒素(A)	リン酸	カリ(B)	
にんじん	2.0	0.6	5.0	2.5
さといも	3.1	1.1	6.1	2.0
えだまめ	9.6	2.0	17.2	1.8
ほうれんそう	4.6	1.3	8.5	1.8
かぶ	5.7	2.5	7.8	1.4

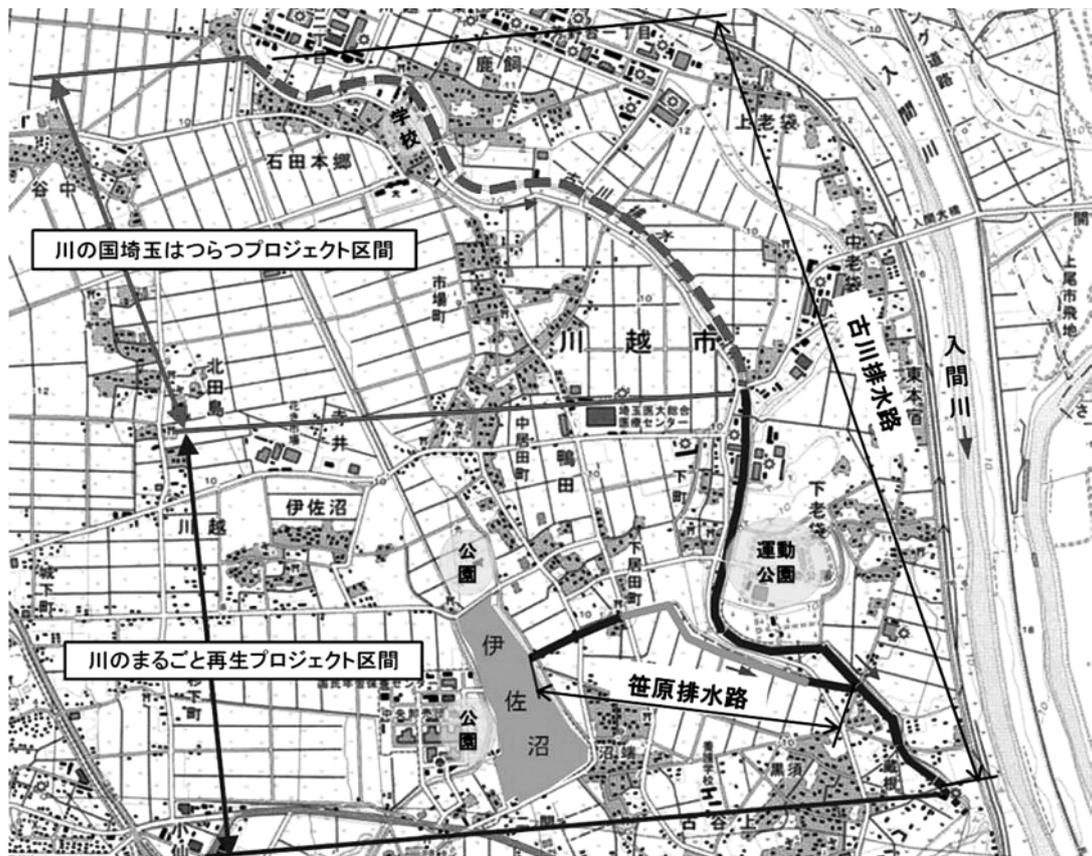
生産性が低下した果樹を改植しましょう

管内では、なし、ぶどう、くり、うめ、ゆず等の特産果樹が栽培されています。これらの果樹では、定植から数十年が経過し、生産性が低下してきている園も見受けられます。老木や収益性の低い品種を改植し、若木に更新していくことで、果樹経営を安定・向上させましょう。

改植の方法として、園全体の一挙改植と、既存樹の近くに苗木を植え、既存樹を間伐していく補植改植があります。

かん水等の丁寧な管理の他、2~3年育苗した大苗、連作障害や野生鳥獣被害の回避技術を導入し、早期収量確保を進めていきます。

川の国埼玉 はつらつプロジェクト(農業用水) 古川排水路地区について



位置図

1 事業目的

古川排水路は、川越市北東部の水田地帯を流れる重要な農業排水路です。

排水路の下流部は、平成24～27年度に実施した川のまるごと再生プロジェクトで良好な水辺空間に整備されています。この水辺空間を上流に拡大して、川越市が整備する散策路（農村のさんぽ道）と合わせて、周辺の伊佐沼や川越運動公園等とのネットワークをつくります。

これにより、ジョギングや散策等の健康づくりを行う人々を水辺へ誘うなど、安らぎとにぎわいの空間を創出するものです。

2 事業概要

事業費	392,000千円
負担区分	県100%
事業量	L=2.76km
事業期間	平成29～32年度（予定）



森林の管理に活躍するドローン

当センターでは森林管理等の業務を安全かつ効率的に行うため、平成29年度、農林部で初となるドローンを導入しました。

林業部では、森林の生育、伐採、獣害等の現況調査のほか、台風や集中豪雨等による山腹崩壊や森林管理道等施設の被害調査を足場の悪い急斜面で行っています。

ドローンを活用することで、遠隔地から短時間に広範囲の撮影や目視できない箇所を詳細に確認できるだけでなく、落石や転落の危険を回避することができます。



写真1 導入したドローン

1 ドローンの活用事例

- (1) 造林補助事業で実施した下刈りの現地確認や既設獣害防護柵の点検にドローンを使用しました。これまで、調査者は急峻な斜面を広範囲にわたり徒歩で実施状況の確認を行ってききましたが、遠隔地から気になる箇所を簡単に確認できるようになりました。また、総延長が数キロに及ぶ獣害防護柵の点検も20分あれば簡単に行うことができます。
- (2) 山腹から土砂が頻繁に流れ出し通行ができない森林管理道について、ドローンにより土砂の発生源調査を行いました。調査の結果、森林管理道から上方120m～230m（高低差）にわたる山腹崩壊が発見され、

崩壊の全容を迅速に把握することができました。これにより崩壊を食い止める治山工事を速やかに発注することができました。



写真2 下刈り状況を撮影するドローン

2 今後期待できる新たな活用事例

ドローンは自動操縦により指定された飛行ルートを飛び、決められたポイントで写真を撮ることができます。この機能を使い航空写真を撮ることができます。この航空写真から点群データを作成し、写真3の様な3Dマップデータやオルソモザイク画像を作成することができます。

最新の事例では、この3D情報から森林を単木的に把握可能になってきたため、樹高から材積を推定し、間伐する木を選定するスマート林業の研究が進められています。

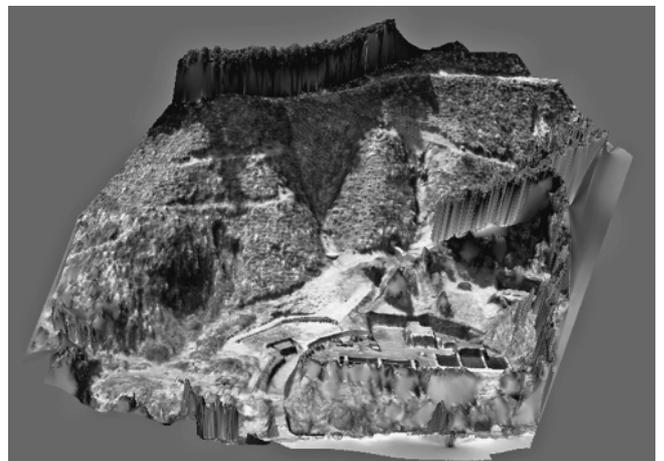


写真3 3Dマップを作製した治山施工地

農林業関係表彰 受賞者の紹介

優良ふるさと食品中央コンクール(新製品開発部門) 食品産業センター会長賞 山口農園

平成30年3月6日、東京都の東海大学校友会館において、埼玉県代表である越生町の山口農園（代表：山口由美氏）が一般財団法人食品産業センター会長賞を受賞しました。地域の特産物である梅を加工した新商品開発を行い、食味や包装デザイン等が優れていることが高く評価されました。



山口農園代表の山口由美さん



受賞した万能梅みそ

埼玉農業大賞(地域貢献部門)優秀賞 所沢市4Hクラブ

平成29年11月11日、彩の国食と農林業の祭典において所沢市4Hクラブ（会長 野沢崇浩氏）が第8回埼玉農業大賞優秀賞を受賞しました。さといもや西洋野菜等の栽培技術向上や市内商工業者と連携した商品開発等を行い、活動成果が県や全国のプロジェク発表会で上位入賞したこと等が評価されました。



授賞式に出席した所沢市4Hクラブ員

平成29年度大日本農会農事功績表彰受賞

平成29年11月15日、大日本農会農事功績表彰式が東京で行われ、日高市で茶業を営む吉野誠一さんが緑白綬有功章を授与されました。

吉野さんは茶業の家に生まれ、高校卒業後、埼玉県農業大学校で1年間学んだ後、就農しました。その後、家業のかたわら県茶業研究所に通い、同研究所独自の病虫害発生予察に

50年間助力し、県で育成した品種の導入により、入間北部地域の茶業に影響を与えました。また、有望な自家品種の育成、商品化やウーロン茶、紅茶の製造、販売に取り組んでいます。他方、ホームページやメディアを利用して、自家商品や日高市農業の良さを紹介していることなどが高く評価されました。

6次産業化アワード(優良事例) 奨励賞 女性活躍賞 有限会社 貫井園

平成30年3月1日、東京都港区において平成29年度6次産業化ネットワーク活動全国推進事業の6次産業化優良事例表彰が行われ、人間市の有限会社 貫井園が奨励賞（女性活躍賞）を受賞しました。



取締役の貫井香織さん

新たな視点で6次産業化に取り組み、女性グループとして海外輸出へ取り組んだことが高く評価されました。



受賞した貫井園の商品

地域指導農家、さいたま農村女性アドバイザー認定

平成29年12月5日、川越農林振興センター主催により、平成29年度地域指導農家・農村女性アドバイザー認定証交付式をウェスタ川越会議室において開催しました。

地域指導農家及びさいたま農村女性アドバイザーは、いずれも農業・農村のリーダーと

して知事が認定しています。

地域指導農家には、田中英也氏（毛呂山町）神田大嗣氏（毛呂山町）が、さいたま農村女性アドバイザーには、見澤昌代氏（所沢市）金子富美子氏（富士見市）が新たに認定されました。

全国林業経営推奨行事 林野庁長官賞

平成29年11月7日、第56回農林水産祭参加全国林業経営推奨行事において、落合慎一さん（飯能市）が林野庁長官賞を受賞しました。この賞は森林の多面的機能の発揮及び林業の持続的発展に寄与している経営体を表彰するもので、西川材スギ・ヒノキの優良材生産への取組みが高く評価されました。

しいたけほだ場共進会 農林水産大臣賞

平成29年11月23日、第56回農林水産祭式典が行われ、しいたけほだ場共進会で農林水産大臣賞を受賞した久保田勝さん（入間市）が出席されました。効率的かつ丁寧な作業や適切な温度・湿度管理など、優良ほだ木の生産に必要な伏込場の環境整備と管理技術が特に優れていることが高く評価されました。

埼玉県農林部優秀建設工事及び優秀現場代理人等表彰

当センター管内において、山間部の厳しい現場において優秀な工事を施工した業者1社及び現場代理人3名を表彰しました。

表彰式は平成29年12月11日に飯能合同庁舎で行いました。

表彰者は次のとおりです。

【優秀建設工事】

西名栗線（山中工区）森林管理道開設工事（株磯田建設）

【優秀現場代理人】

黒沢将之（株磯田建設）、齋藤隆（守屋八潮建設株）、引間三郎（株新井建設）

お知らせ

農業法人等の雇用を目的とした作業環境改善にかかる費用を補助します

県では農業法人及び法人となる見込みの認定農業者に対して、新たに高齢者や女性・障がい者を雇用するに当たり必要となる機具・機械・施設の整備にかかる費用を補助しています。



導入した移動式トイレ

なお、管内で農業生産を行う農業法人は190法人（平成30年3月末現在）あります。

農林振興センターでは、認定農業者等からの法人化の相談を受けており、高度な相談内容については税理士や社会保険労務士等の専門家からのアドバイスも受けられます。詳しくは農業支援部 新規就農・法人化担当まで。